

令和4年度 第5回 伊勢市障害者施策推進協議会（自立支援部会） 結果概要

開催日時	令和5年2月3日（金曜）13時30分～15時45分
開催場所	伊勢市役所東館4-4会議室（Web会議）
出席委員	嶋垣 智之 部会長、青木 哲也 委員、浦田 宗昭 委員、西村 桃子 委員、 岡田 まり 委員、川口 幸生 委員、竹澤 尚美 委員、富田 真実子 委員、 山本 美穂 委員、山本 明伸 委員
事務局	高齢・障がい福祉課長・障がい福祉係長 福祉生活相談センター職員1名、 障がい者地域相談支援センター長3名
傍聴者	13名

報告事項

（1）各プロジェクトチームの取組状況報告

人材確保・養成チーム、就労支援チーム、医療的ケア児者支援チーム、それぞれの進捗状況を報告。

（委員からの意見等）

- ・医療的ケア児者チームの取り組みにあたっては県内の好事例を参考にすると良いと思う。
- ・喀痰吸引3号研修の実施については、1体10万円以上するモデルを購入するか借入する必要がある。このことについては行政も前向きに検討してほしい。
- ・三重県社協では、モデルを三重県から借りて喀痰吸引等研修を実施している。三重県に借入可能か確認してみてもどうか。

（2）サービス事業所等連携会議（全体会）の取組状況報告

事務局より、1月19日に開催された本会議の内容について報告。

（3）相談支援ネットワークグループの取組状況報告

相談支援ネットワークグループ代表の山本委員より、本グループの活動状況を報告。

協議事項

（4）地域生活支援拠点等事業モデルケースの取組状況報告

事務局より、取組状況を報告。

（5）伊勢市における地域生活支援拠点等システムの推進について

事務局より、自立支援部会の提案等を踏まえ令和5年度に検討中の事業について説明。

（委員からの意見等）

- ・これまでの地域生活支援拠点の取り組みの意見を取り入れて施策を検討いただ

けたのはありがたいと思う。

- ・令和5年度検討の「緊急時支援費」の対象が「相談支援専門員等」としているが、これは相談支援専門員に限らず全ての支援者を対象としているという解釈で良いか？

→（事務局回答）お見込みのとおり。

- ・今後、登録事業所を増やすことが必要であり、そのためには先ず伊勢市独自ものも含めた請求可能な報酬等の周知と同時に事業所が登録にあたり求められる条件としての登録要件の整理及び周知が必要になる。それらの点を押さえながら、今後対応していくことを確認したい。

（6）新プロジェクトチームの提案

【提案要旨】

- ・前回の部会で検討された「こどもチーム」、「地域生活支援拠点チーム」の取組方針などを協議。
- ・（地域生活支援拠点チーム）現在進めている取り組みに加え、令和5年度の具体的運用が開始され本格的な検証が始められる時期にチームを新設し、地域生活支援拠点等システムの検証と改善検討、体験機能等の検討を進めていく。
- ・（こどもチーム）障がい、発達に支援が必要な児童及び家族に関する課題解決に向けた協議を進めていく。

（委員からの意見等）

（地域生活支援チームについて）

- ・緊急時の安心感だけでなく、地域移行という別の暮らし方にチャレンジできる仕組みづくりも取り組むことを明記してほしい。
- ・チームの開始時期を柔軟に対応できるようにしてもらいたい。
- ・医療的ケアが必要な人の緊急時対応にかかる資源や体制づくりも考えていけると良い。

（こどもチームについて）

- ・教育分野としっかりと連携してほしい。
- ・教育分野以外も含めた他分野とも連携を深めたり、専門性を高める取り組みが求められる。
- ・関係機関の相互理解だけでなくこども同士も含めたインクルーシブに繋がる取り組みを含んだチームでありたい。
- ・伊勢市全体のこども施策や協議の場と、このこどもチームが連携や棲み分けがされるように、事前の調整が必要。
- ・顔の見える関係づくりが第一に求められる。
- ・保育園、こども園との早期連携が必要。
- ・途切れのない支援という考え方が重要であり、こども分野の課題を解決できるチーム構成員を考えなければならない。
- ・何を改善していくのか、具体的な分野の整理と解決できる専門家が必要。

(7) 地域相談支援体制の振り返り及び改善シートについて

事務局より、各地域相談支援者からの自己評価及び他者評価結果を報告。

基幹型の他者評価では、「評価できない・全く評価できない」が合わせて41%で、「大変評価できる」は0件、さらに基幹型の役割を理解している人ほど評価できないという割合が53%と高くなる結果。

地域相談の他者評価では、「評価できる・大変評価できる」が合わせて46%で、地域相談の役割を理解している人ほど評価できる割合が51%と高くなる結果。

【提案要旨】

- ・地域の相談支援体制をより良くするための評価として今後も継続することを確認。

(委員からの意見等)

- ・連携を円滑に実施できるかたちを模索していきたい。
- ・回答率は事業所単位で100%である。
- ・令和5年5月の基幹相談の引継ぎをきっちりしてほしい。
- ・多職種の顔の見える関係、仕組みづくりが重要である。
- ・基幹相談が評価できないという結果となったのは何故か？
→基幹相談の役割を果たしているという自己評価と他者評価結果との乖離が非常に大きいことから、基幹相談が自身の役割を理解していないことがある。
- ・各機関が基幹型の役割やその他の役割について理解し合意していくことが重要である。
- ・来年度への意見として、基幹相談の運営に困難さがあるため、来年度に民間委託することになったとあらためて整理していただきたい。その上で、基幹相談の委託先が役割を発揮するために行政がしっかりとその土壌を整備すること、それらを踏まえて、基幹相談や地域相談などの相談支援体制の評価を自立支援部会で前向きに継続していくこと、ネットワークグループ会議で、基幹相談、地域相談、計画相談が課題を出し合い、高めていけるように基幹型を運営していくことが必要である。
- ・地域相談については、相談受付は地域相談の業務であり、基幹相談はそのバックアップを行うことが必要。
- ・計画相談の評価は、国が想定するモニタリングの仕組みを徐々に整えていく方向で進めてほしい。

(8) 伊勢市虐待対応マニュアルについて

事務局より、前回の部会の意見を踏まえ、伊勢市虐待対応マニュアルの検討状況を報告。

【提案要旨】

- ・伊勢市虐待対応マニュアルについては随時更新を検討している。

(委員からの意見等)

- ・前回の部会で文書にて提案をしており、今年度最後の部会であるため、終了後も一定の検討結果を示していく必要がある。検討結果については、後日部会長

及び各部会委員へお示しする。

- ・議題（７）のアンケート結果からも、現在の虐待対応に関して、相談なのか通報なのかと聞かれるなど、相談員からの悲痛な声がある。相談員の背後には虐待から逃げられずにいるご本人たちがいる。

（９）自立支援部会全体の振り返り

事務局より、今年度の自立支援部会の活動実績について報告。

【提案要旨】

- ・令和４年度の活動実績の報告、確認。

以上、（４）～（９）の提案等について承認された。

3 その他

事務局より、資料に基づき以下の取り組み等について説明。

- （１）令和４年度ビジネスパーク伊勢の取り組みについて
→来年度以降も継続して取り組みを続けていくことを確認。
- （２）駅前「伊勢市健康福祉ステーション」の紹介
- （３）障害者総合支援法等の改正について
- （４）基幹相談支援センターの民間委託について
- （５）第７期障害福祉計画等について